

神戸〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

「ここで暮らして大正解」

(社団法人 日本空手協会兵庫県本部名誉会長)

かわ ぐち し ろう
川口 史郎 様

65歳で仕事をリタイアしてゆうゆうの里に入居し、今年で米寿を迎えます。

子供がなく、人には迷惑をかけたくないという強い思いがあり、55歳くらいからホームへの入居を考えはじめました。ホームを検討する決め手は三つ。①医療②食事③日当たりでした。そして、町にしやすい所と考えると二つのホームが候補にあがりました。

ゆうゆうの里を見学に来た日、空が曇っていたのに、正門に到着した途端に空が晴れ渡り「ここにしよう!」と決めました。当時入居するのに、5年待ちとの話がでたことを覚えています。

入居後から空手を再開して、今も日曜日毎に2ヶ所の道場で子供たちと一緒に稽古をしています。大勢の子供たちを見てきました。バランスの良い子、見切り・間合いの感覚に優れた子、闘志の滲み出る子、辛抱強い子—どの子にも必ず長所があります。一昨年、幼稚園の頃から見ている子が慶応大学を卒業しました。その子が昨年の世界大会で準優勝した時は、本当に嬉しかったです!!小さな頃から、大人になり巣立つまでの成長を見ていと親のような気持ちになります。欲目かも知れませんが、空手の子供達は他の子供と何処か違うような気がします。



川口史郎様

家内と2人で毎朝、散歩するのも毎日の習慣です。以前は、大好きな犬の写真を撮影しながら前の住宅街を1時間ほど散歩していました。撮影した写真をその家のポストにいれておくと大変喜んでくれて、ゆうゆうの里まで訪ねて来てくれた方もありました。大体200頭くらいの犬



作品展に出展された写真

を撮影しました。今は、距離を短くして、隣の公園へ散歩に行っています。そこに集まる犬達の写真を11月に開催された里の「文化作品展」へ出展致しました。僕も犬を飼っていましたが、犬達を見ていると本当に色々な事をよくわかっているし、人と心が通じていると感じます。

「歌壇」への投稿も趣味の一つです。何かを伝えたい気持ちが昂ぶった時に短歌を詠みます。

“東日本大震災”がテーマの時の作品です。

「頑張ってね 空しきことと思えども 他に言うべき言葉なければ」

この作品が、【朝日新聞の歌壇】で入選することができました。何度か歌壇で入選したことがありますが、自分の気持ちをうまく凝縮して詠めた時に入選できるような気がします。

そんな日常を楽しみながら、今年で入居して22年目を迎えます。ゆうゆうの里の敷地内の診療所には、頼りになる医師が居てくれて、元気で明るいスタッフの見守りがあり、そして何より毎日の食事には、本当に職員の愛情を感じます。毎日工夫されているメニュー、揚げたてサクサクの天ぷらやとんかつなどが食べられるホームなんてないのではと思います。入居の決め手を全部満たしている神戸ゆうゆうの里に来て、本当に大正解でした。